

→二つお話し

→いい話だね

しゆんくん とてもしんか

書いてね



作文用紙

うちゅうラ人のいる教室

西河人

ぼくとレオナは、ぼくとスタートラインに  
 取りのこされた。ぼくは、レオナとい、しよんに  
 そうなんだ。ぼくは、家をでた時から  
 走る決心をしたんだ。けさ、家をでた時から  
 そう決めたんだ。  
 ぼくがようち園のとき、大文字山に登る行  
 事がありました。班に分かれて登っていたと  
 き、ゆっくりの子のペリスにみんなが合め  
 るものでした。あるきにくいな、とさし  
 思ってしまった。あ、だんだん楽しくな  
 てきました。まるで、ゲームをみんなで行  
 アするような気分でした。とうちやんた  
 き、ゆっくりに、た子がアみんなありや  
 っと言った。た子がアみんなありや  
 ぼくの母は、小学生のとき、自分で車かこ  
 しながら歩いてくれたこと、ア、たそ  
 もうしあけたい気もち、ア、たそ  
 ばいその子にお世話になっ、たけら、サ  
 笑いながら話してくれました。ばかりだ、

→ マラソン大会のとき、こつやは正のおそろレオナと  
 いっしょに走る決心を、しよんち。そして、マラソン  
 ガスタートすると、こつやとレオナはそのまま  
 スタートラインをきんた、こつやの  
 押しま  
 ました。

レオナはフヤに言いました。レオナの住んでいる星は自然の少ない  
荒れた星なのである

作文用紙の表紙情報: 先生、通分、月、ページ目、生徒コード

本文: ぼくは、今の生活では、まだまだ自分のこ  
とも自分で出来ていない。もしぼくが今、い  
とりになったら、たとえ生きていけな  
いとしても生きていけな  
い。ぼくは、今の生活では、まだまだ自分のこ  
とも自分で出来ていない。もしぼくが今、い  
とりになったら、たとえ生きていけな  
いとしても生きていけな  
い。

レオナはぼくとデレパシーで話すニムダがキマキマ  
時よ

レオナはぼくとデレパシーで話すニムダがキマキマ  
時よ

感想はお母さんと協力して